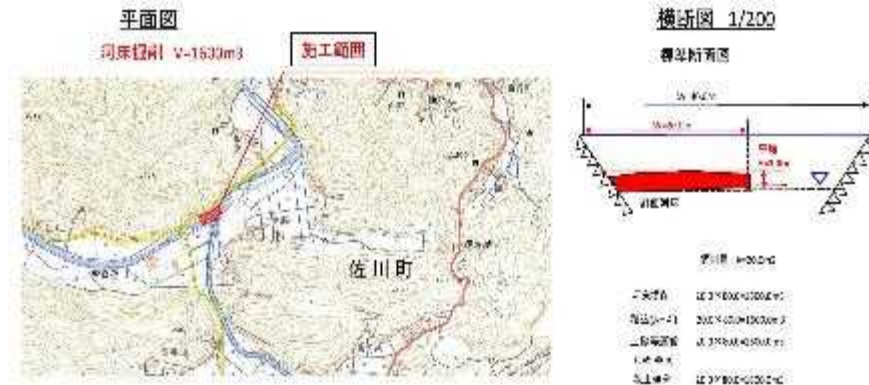


令和4年度 建設業デジタル化促進モデル事業現場見学会（株式会社柳瀬建設）

<デジタル化促進モデル事業の実施内容>

導入機器：3次元設計データ作成ソフト、自動追尾型TS
工事概要> 快速ナビ

工 事 名：河改（浚）第7-4-2号 柳瀬川河川改修工事
請負代金：9,240,000円、工期：令和6年12月25日～令和7年3月25日
工事内容：河床掘削V=1600m³



<参 加 者>

18名（建設会社：2社5名、県職員：5名、市町村職員：8名）



3次元設計データ作成



プロセス	使用機械等	従来	I C T	効果	評価
3次元起工測量	従来通り	-	-	-	-
3次元設計データ	内製化	1人・日	1人・日	0%	浚渫工事なので比較的簡単に作業ができこれからもこのような工事があれば活用していきたいと思っています。
I C T 施工	従来通り	-	-	-	-
3次元出来形管理	TS出来形管理、杭ナビ・快測ナビ（今回導入）	2人・日	1.0人・日	-50%	各工種の出来形測量を1.0人で行う事ができました。さらに従来の方法より時間を短縮する事ができました。
合計		3人・日	2.0人・日	-33%	

施工者のコメント

これまで従来の方法の測量では労力、時間を多く費やしてきました。ICT測量機器、ソフトウェアを使用する事で労力、時間を大幅に削減、短縮する事ができました。

熟練技能が必要な現場での測量も簡易に機械が操作できるのも利点である。今後もICT測量機器の活用するタイミングがあれば積極的に活用しようと考えています。

発注者のコメント

河川の浚渫の現場で一部のプロセスによる活用とのことで、導入した機器を用いて労力や時間を削減でき、効率化を実感できている。若手の従業員も多く、機器の操作等の習得が早いようなので、今後は他のプロセスにおいてもI C Tを適用して、更なる生産性向上につなげてもらいたい。